

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	商店街（代表者）	販売量の動き	・店頭売上が前年同月比で2けた増加と絶好調である。懸念していた台湾問題等の影響により、中国人観光客の免税売上は前年比で30%以上減少している。しかし、欧米を中心としたインバウンド需要が非常に旺盛で、その減少分を補って余りある売上を記録している。特にこの秋は当地の伝統工芸品の価値を理解して購入する欧米の客が大幅に増えており、客層の転換による好影響を受けている。
	◎	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気温が下がって秋本番になるにつれ、客の動きが活発になり、購買意欲が増している。
	◎	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・例年11～12月の北陸は、おいしい冬の海の幸を求める県内外の客でにぎわい、来客数が増える。今月もインバウンドを始めとした観光客が多く来店している。また、忘年会の実施が例年より2週間ほど早くなっており、前月より予約数が増加している。
	○	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・年末に向けて必要な商品を購入する客が増えている。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・来客数、販売量共に微増している。
	○	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・食品の値上げが一段落したこと、また、前年のように極端に気温が高い状態ではないことから季節商材が伸び、今月は販売数が増加している。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博の閉幕後は予約数が伸びており、今月の売上は北陸新幹線開業年の前年を上回っている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・大阪・関西万博が閉幕してから徐々に旅行客が増えている。
	○	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・旅行会社のツアー団体客は堅調に推移しているが、ビジネスを中心に個人客の需要が落ち込み、前年の稼働率を下回っている。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・SNSを使ったファンサービスが好評である。インターネット販売との相性が良く、売上は前月に引き続き増加傾向にある。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・連休や週末のイベント効果で人出はまずまずの印象を受ける。幾つかの衣料品店の話によると、冬物衣料の売行きが好調である。また、夏に開店した比較的大きな最寄り品店の来客数が順調な推移をみせており、街全体の景気の底上げにつながることが願っている。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・生鮮食品はずっと良くないが、総菜が良いため景気は大きく変わらない。
	□	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・連休が多い月であるため、人気の食催事などを実施した。気温の低下により衣料品などはやや伸長しているが、食品は購入数、購入額共に減少している。物価高の影響により、特に菓子などの贈答品やぜいたく品が苦戦している。また、来客数が伸びない状況である。ガソリン代が高くても低価格で販売している郊外の店舗へ車で行ったり、駅前に飲食店が増えたりしていることが、要因になっているとみている。
	□	スーパー（役員）	来客数の動き	・来客数は前月までと変わらず、ユニーク客数や来店頻度もほぼ同様に推移している。ポイントサービス日や特売日に客がまとめ買いをしている状況も変わっていない。
	□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・販売単価が上昇しているため、来客数は前年と比べて3%程度の減少が続いている。売上は前年同等若しくは微減で推移している。粗利は前年同等だが、最低賃金引上げによる経費負担が15%程度上昇しているため、経営は大変厳しい。人員削減によるサービスの低下など課題が山積している。

□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が緩やかに低下している。物価が高止まりであるため、客の節約志向が割高感のあるコンビニを避けているのに加え、北陸地域に関してはドラッグストアの進出が顕著で、価格優位性のある競合店に客が流れている。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・3連休は旅行などに出掛ける人が多く、来客数はそれほどなかった。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向が大変強く、簡単に売上は上がらない。
□	家電量販店（本部）	販売量の動き	・現行OSのサポート終了に伴うパソコンの需要高や寒波の早期到来によるエアコンの動き出しの良さがありながらも、家電全体としては横ばいにとどまっている。客にメリハリ消費の様子がみられる。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前年と同様に公共施設を借りて新車販売イベントを開催したが、販売量が前年と比べて全く増えていない。今年の販売状況が2～3か月ほとんど変わらず、低調な状況が続いている。
□	乗用車販売店（総務担当）	単価の動き	・前年と比べて下回っている項目が増えているが、新車の単価が上がっているため、全体としては前年の水準を維持している。
□	乗用車販売店（経理）	販売量の動き	・新車の受注量、販売量共に、引き続き一定水準を維持している。
□	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・販売量、来客数、客単価の全てが悪く、良い点が1つもない状況である。
□	観光型旅館（経理）	それ以外	・前年1月1日に発生した能登半島地震により休業状態が続いており、再開までにまだ1年以上の期間を要する見込みである。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・今月は観光客が多い。平日でも人出が多くあり、11月22日からの3連休は特に利用客が多かった。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客からの問合せ内容に変化がない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・サービス種別により若干傾向が異なるものの、全体として契約数は変わらない。
□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（経営者）	お客様の様子	・会員数の変動がない。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・ここ数か月、来客数が毎月3％程度減少している。要因としては、客の高齢化、物価高による来店間隔の長期化、値上げによる客離れ、新規客の獲得不足などが挙げられる。
□	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・1件当たりの契約金額が大きくなっているため、今月も前年より契約金額が高い。ただし、地域によって契約件数のばらつきがあり、地域差が大きくなっている。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・能登半島地震の被災地における再建住宅のほとんどが平屋住宅での受注である。また、それ以外の地域でも最近の平屋住宅ブームの影響により、1棟当たりの請負単価が小さくなっている。
□	住宅販売会社（営業）	販売量の動き	・商談はあっても契約につながらない。建設費の高騰により、商談が順調に進まない。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・11月は前年同月と比較して暦周りが好条件であったにもかかわらず、中国からのインバウンドの渡航自粛の影響によりインバウンド売上が激減し、店全体では前年実績割れの見通しである。
▲	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・期間限定などで販売する商品は堅調だが、日常的にそろえている商品の動向が良くない。特にファッション関連の商品においてその傾向が強い。
▲	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・特売品以外の商品の動きが鈍い。
▲	コンビニ（店舗管理）	それ以外	・米価格が予想以上に高止まりの状態である。価格転嫁はある程度しか進まず、利益が悪化している。
▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・製品が壊れて買換えの時期が来ない限り、客は購入することがない。

	▲	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・週末の人出はややあるが、平日は例年より少ない。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・中国人観光客の来訪がめっきりなくなったため、あてにしていた仕事も減っている。
	▲	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に新規契約数が前年同月より下回っている。
	▲	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・前年と比較すると、団体、グループ、個人客共に来客数はやや減っている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築資材の高騰により、販売量の動きが停滞している。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・物販は変わらず低調で、比較的好調だった飲食も、ここに来て来客数が減少している。購買意欲はあるが懐具合がついてこないといった雰囲気が、客に漂っている。
	×	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・今は単価の上昇に助けられているが、これまで減少し続けている来客数が更に悪化している。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・開店以来最低の売上で、赤字となり厳しい状態である。当店は限られた高い年齢層の常連客で成り立っているため、先々が不安である。複数の経営者からは不景気だという話を多く聞いている。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	税理士（所長）	取引先の様子	・特に飲食業については、売上がここ数年で1番良いところが多い。ただし、物価高による原材料価格の高騰と賃上げが影響し、利益率は落ちている。
	□	繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・中国市場の低迷が長期化している。しかし、米国の関税引上げの影響については、繊維産業はサプライチェーンが長いため顕在化していない。スポーツやアウトドア向け製品は堅調な状況が続いている。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比べて変わらず推移している。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて新規案件の受注が伸びておらず、横ばいである。また、新規案件の量産開始までの期間が長くなっており、半年以上を要していることを考えると、目先の好況感がない。ただ車載関連製品だけは継続して注文が入っているため、景気は変わらない。
	□	建設業（役員）	それ以外	・最近の株価上昇傾向から、やや良い状態が続くとみている。
	□	輸送業（経理）	取引先の様子	・取引先に価格を改定してもらわないと採算が合わないが、それも難しい状況である。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・株価の上昇に伴い、5月より受注量が増えているものの、現在は頭打ちの状況である。
	□	金融業（融資担当）	取引先の様子	・決算や試算表による企業の経営状況を確認すると、コスト増加に対応するため順次値上げを実施していることがうかがえるものの、増加したコストに相当する価格転嫁は追いついておらず、利益率がおおむね悪化している。一方で、賃上げは着実に実施されており、今後は個人消費が拡大していくとみている。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からは活発な話を聞くことがない。
	□	司法書士	取引先の様子	・駅周辺の再開発が進み、オフィスビルでは事業所用賃貸物件が好調との話を聞く。一方で、同じ駅周辺でも小売店、飲食店では空き店舗が目立っている。
	▲	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震での被災から間もなく2年になるが、いまだ被災前には遠く及ばない状況にある。ほとんど全ての事業領域で数字が下回ったままである。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
	○	*	*	*
雇用 関連 (北陸)	□	新聞社〔求人広告〕（営業）	周辺企業の様子	・業種によって好不調のばらつきが大きい状況が続いており、全体の傾向が上向きか下向きかは一概にはいえない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数、紹介件数、就職者数に大きな変化はないが、前年同月と比較すると有効求人倍率が徐々に下がり続けている。人件費、原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などが影響している。

	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・ 中小企業を中心に人手不足感が強い傾向は変わらない。業種により求人数の増減はあるものの、全体の傾向として大きな変化はみられない。
	▲	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・ 求人数が微減している。
	▲	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 求職者数が増加に転じている。60代だけでなく70代以上の求職者からも年金だけでは生活が厳しいという話を聞いている。また、中高年の派遣労働者からは仕事が紹介されにくくなったという話を聞く。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 求人数が減少している。
	×	—	—	—